

週日の説教

金 大烈 神父 2011年9月15日(木)

《悲しみの聖母 ～私たちの素晴らしい母を愛しましょう～》

今日は「悲しみの聖母」の記念日です。日本語では「悲しみの聖母」と言いますが、原語では「苦しみの聖母」です。苦痛・痛み of 聖母の意味です。

なぜこの記念日が定められたのか説明をします。「悲しみの聖母」の前日は、「十字架称賛」の祝日です。十字架の権威を祝います。そしてその翌日に、苦しみの聖母を記念するミサを捧げます。その目的は、ただ一つです。イエス様と共に十字架の道を歩んだお母さんの心、そして十字架上で命を引き取る姿を見なければならなかったお母さんの心を一緒に黙想するためです。私たちは、十字架の前に母マリア様がいたことをよく知っています。しかし、“もし自分がイエス様のお母さんで、一番大切な息子が人々の前で十字架につけられる光景を見ることになったら、どんな気持ちになるのか”考えたことがありますか。“マリア様が感じられた痛みを私たちももっと深く感じなければいけない”という意味で、この記念日が定められたのです。

今日は、ヨハネによる福音の19章25節から27節を読みましたが、「悲しみの聖母」の記念日にはルカによる福音の2章33節から35節を読むこともあります。シメオンが預言をする部分です。その中でシメオンは、「あなた自身も剣で心を刺し貫かれます — 多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」と言っています。シメオンの預言した内容は、完璧に当たりました。マリア様は、この言葉のように、イエス様を身ごもった時から十字架上で息を引き取られる時まで、心だけでなく体も剣で貫かれるような痛みを経験なさったお母さんです。そして、このようなお母さんであるから、私たちのいろいろな痛み、苦しみを誰よりもよく理解してくださいと私たちは思っています。

もし皆様の子どもが、愛する誰かが、このような痛みを体験することになり、それを見なければならぬ立場になったら、どのくらい痛みを感じるのでしょうか。想像するだけでも辛いですね。このような心を持っているお母さんがいることを私たちはいつも意識するべきです。そして、何でも話せる、どんな時でも頼れる私たちの母を愛しましょう。

広報《アニュス》の夏号にも書いてみましたが、できれば、皆様も母のために何かを差し上げられる立場になってほしいのです。いつも頼ってばかり願ってばかりでなく、あらゆる痛みを全部抱いた母の、慰めになれる、力になれる息子、娘になることが必要ではないかと思えます。

私たちはこのような偉大な母を持っています。ですから、愛しましょう。

ありがとうございました。